

里山における「人間と生物圏」の共生に関する 分野横断的ESDプログラムの開発

1. 研究の先にある新たな未来とは？

この地球上に「私たち」が生き残るには、現在の環境課題、特に生物多様性の危機的状況を認識することが必要です。本研究拠点では、様々な世代の「私たち」が多様な体験を通して生物多様性の重要性に気づき、行動を変えていくためのESD（持続可能な開発のための教育）を提案し、自然共生社会の構築に向けて貢献します。



2. どんな研究をしている？

本学の豊かな自然は未来を創る大きな可能性を秘めています。2050年ビジョン「自然と共生する世界」の実現に向け、本学を教育の実践フィールドとして活用し、多様な文化研究の専門人材と連携した環境教育を構築、生物文化多様性の分野融合的かつPBL（探究・プロジェクト型学習）のESDを研究し、提案・実践・発信を続けています。

3. その研究をしようと思ったきっかけは？

自然環境がこれまで緩衝してきたさまざまな環境負荷が、一気に閾値を超えようとしているためです。今こそ生物多様性と文化多様性の相互作用を体験・理解することで人々の行動変容を促し、持続可能な未来への道筋をつける必要があります。本学の環境的、人的資源を活かし、未来に豊かな生態系を残すため研究を続けています。

「人間と生物圏」共生を基軸としたESD 研究拠点

拠点長：倉田 薫子（教育学部）



詳細はこちら



いいね！を貼ろう